

【資料①】 令和元（平成 31）年度 地方創生関係交付金対象事業検証シート

※成果実績と活動実績の指標については令和 2 年度事務事業評価より抜粋

No. 1

R1地方創生推進交付金 小さな拠点を核とした市民協働による地域活性まちづくりプロジェクト	
事業名	地域づくり組織支援事業
担当課	まちづくり推進課
予算額	29,641 千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>人口減少や過疎高齢化が進展し、自治会をはじめとする従来の地縁型の組織の持続や担い手の不足が懸念されるなか、自治基本条例に定義される包括的な自治組織である「地域づくり組織」の設立や活動を支援し、地域の資源を活かした個性豊かな地域づくりや地域の課題解決を住民が主体となっていくことを目指す。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>現在、活動されている地域づくり組織（三和地域協議会、夜久野みらいまちづくり協議会、大江まちづくり住民協議会）や新たに地域づくり組織の設立を検討している地域等に対し、活動や設立の支援を行うとともに、市民協働や自立した地域づくりについて学ぶ機会を提供する。</p>	
決算額	（補助対象事業費） 報償費 10,000 円（プロジェクト事業に対する審査員謝礼） 役務費 362 円（郵送料） 使用料及び賃借料 22,280 円（交流会会場使用料） 補助金 300,000 円（地域づくり組織設立準備補助金） 計 332,642 円
K P I	（目標）住民主体の地域づくり組織数 7 組織 ⇒（結果）3 組織 （目標）市街化調整区域における地区計画の指定区域数 3 地区 ⇒（結果）2 地区 （目標）自主防災組織の組織率 85% ⇒（結果）83.2% （目標）農山村地域における空き家バンク成約による移住者数 118 人⇒（結果）139 人
<p>3 事業の成果</p> <p>地域づくり組織の主体的な活動を側面的に支援することができた。 新たに 1 地区で地域づくり組織が設立されることとなった（令和 2 年 4 月）</p> <p>4 課題</p> <p>地域の置かれる状況により、地域づくり組織設立に向けた機運が異なるため、全市的に展開するには時間が必要。</p> <p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>既存の組織に対しては引き続き伴走支援を継続するとともに、新たに設立を検討している地域に対し、設立に向けた支援を行う。</p>	

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	地域づくり組織数	団体	3/3	3/7	3/7
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	部会・研修等 開催回数	回	153/132	183/132	173/132
担当課による評価	B (相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	既存の3つの地域づくり組織の活動継続と新たな組織の設立につながったため。				

R1地方創生推進交付金 小さな拠点を核とした市民協働による地域活性まちづくりプロジェクト	
事業名	地域コミュニティ交通導入モデル事業
担当課	都市・交通課
予算額	2,000 千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>「福知山市地域公共交通網形成計画」に基づき、地域の実情やニーズに適した効率的・効果的な交通体系の再編を進めている。その一環として、三和地域をモデル事業として、バス路線の再編に伴う補完、また鉄道やバス路線から離れた公共交通空白地における移動手段の確保のため「公共交通空白地有償運送事業」の導入推進のため、その支援内容や適正な運行のあり方について検証を行うことを目的に実施する。</p>	
<p>2 事業の内容</p> <p>三和地域における利用率が低い市バスの削減や路線の短縮等運行内容見直しに合わせ、三和地域協議会が実施する公共交通空白地有償運送事業「みわひまわりライド」を地域コミュニティ交通導入のモデル事業として位置づけ、運送に要する経費を支援する。</p>	
決算額	補助金 2,000,000 円（内訳：三和地域協議会への補助金） 計 2,000,000 円
K P I	<p>（目標）住民主体の地域づくり組織数 7 組織 ⇒（結果）3 組織</p> <p>（目標）市街化調整区域における地区計画の指定区域数 3 地区 ⇒ （結果）2 地区</p> <p>（目標）自主防災組織の組織率 85% ⇒（結果）83.2%</p> <p>（目標）農山村地域における空き家バンク成約による移住者数 118 人⇒ （結果）139 人</p>
<p>3 事業の成果</p> <p>三和地域の市バスの段階的再編により、市バスから個別移送への転換が進んだことで「みわひまわりライド」の利用は年々増加しており、令和元年度は延 9 6 9 人の利用があった。</p>	
<p>4 課題</p> <p>利用者は増加しているが、当初見込みの延 2, 5 0 0 人まで利用が伸びず、引き続き利用拡大に向けた取組を行っていく必要がある。</p>	
<p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>引き続き事業の検証を行う中で、支援内容のあり方を検討し、地域コミュニティ交通導入に向けてガイドラインを作成する。</p>	

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標 新たな移動手段 の導入・試行件数	単位 人	H29 1/6	H30 1/6	R1 2/6
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標 有償運送利用者数 (1日当たり)	単位 人	H29 1.6/5	H30 2.4/5	R1 3.3/5
担当課による評価	C (効果があった)				
評価をつけた理由	1日当たりの利用者数が3.3人と目標値の5人を下回っているが、市バスから個別移送への転換は進んでおり、一定の効果があったものと評価する。				

R1地方創生推進交付金 小さな拠点を核とした市民協働による地域活性まちづくりプロジェクト					
事業名	地区計画策定事業				
担当課	都市・交通課				
予算額	65 千円				
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>人口減少が著しくコミュニティの維持が課題となっている市街化調整区域の集落に地区計画を策定し、土地利用を誘導することで地域の中核となる小さな拠点の形成を図り、地域活性化を促進する。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>住民が主体となった話し合いの中で共有された地区の将来像の実現に向けて、地区計画を策定する。</p>					
決算額	需用費	40,710 円 (内訳 消耗品費)	計 40,710 円		
K P I	<p>(目標) 住民主体の地域づくり組織数 7 組織 ⇒ (結果) 3 組織</p> <p>(目標) 市街化調整区域における地区計画の指定区域数 3 地区 ⇒ (結果) 2 地区</p> <p>(目標) 自主防災組織の組織率 85% ⇒ (結果) 83.2%</p> <p>(目標) 農山村地域における空き家バンク成約による移住者数 118 人 ⇒ (結果) 139 人</p>				
<p>3 事業の成果</p> <p>令和元年度の地区計画策定をめざした地区において、積極的に説明会、勉強会を開催したが、住民合意が難しく都市計画決定に至らなかった。</p> <p>4 課題</p> <p>地区計画素案の作成及び合意形成は、住民主体を基本に市も参画して実施しているが、素案作成主体への市の関わり方や住民合意の方法などについて工夫が必要。</p> <p>5 R2年度以降の予定</p> <p>住民合意に向けて話し合いを続け、地区計画の策定をめざす。 また、他地区の取り組みも進捗させて地区計画の策定を推進する。</p>					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	地区計画策定 (累計) 地区	式	2/3	2/3	2/5
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	地域勉強会	回	3/2	6/4	7/4
担当課による評価	C (効果があった)				
評価をつけた理由	地区計画の決定には至っていないが、複数の地区で地区計画の策定に向けた取り組みが進行中であり、住民主体の地域づくりを促進しているため効果があったと評価する。				

R1 地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」					
事業名	海の京都DMO事業				
担当課	産業観光課				
予算額	11,228 千円				
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>京都府北部 5 市 2 町を「海の京都」と位置づけ、全国有数の競争力ある観光圏となることを目的に、一般社団法人京都北部連携都市圏振興社を組織し国内、インバウンド対策を実施。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>一般社団法人 京都北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）に対する自治体負担金。</p>					
決算額	海の京都DMOへの負担金 11,288,000 円 計 11,288,000 円				
KPI	<p>（目標）交流人口地域消費額 2,182,300 千円 ⇒ （結果）2,507,782 千円</p> <p>（目標）空き家バンクを活用した移住世帯数 5 世帯 ⇒ （結果）12 世帯</p> <p>（目標）高等教育機関等卒業生の圏域内定着者数 28 人 ⇒ （結果）25 人</p>				
<p>3 事業の成果</p> <p>京都府北部全体で観光による地域づくり、地域活性化のための施策を展開</p> <p>R1 主要事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型旅行商品造成 ・インバウンド誘客 ・クルーズ船対策 ・観光プロモーション ・観光データ収集・分析 <p>4 課題</p> <p>福知山市への経済効果及び費用対効果が明確な数値として表しにくい。</p> <p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>引き続き海の京都 DMO と連携し広域観光やプロモーションで誘客を図っていく。アフターコロナを見据えてインバウンド対策の見直しなど海の京都エリアでの市の立場を明確にしていく。</p>					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	観光入込客数	人	946,618 /960,000	927,086 /980,000	1,116,577/1,000,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	特産品販売額	万円	1,100/2,000	691/2,000	631/2,000
担当課による評価	B（相当程度効果があった）				
評価をつけた理由	海の京都のプロモーション活動と大河ドラマ効果もあり平成23年以來8年ぶりに観光入込客数100万人を突破。				

R1 地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」	
事業名	ふるさと就職おうえん事業
担当課	産業観光課
予算額	3,587 千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>京都府北部の高校生は、高校卒業後進学等により地元を離れ、京阪神の大学等へ進学することが多々ある。そういった京阪神の大学等の未就職卒業予定者やU・I・Jターン希望者等を対象に、北部7市町内事業所による合同企業説明会を京都市内で開催し、来場者に就業支援や各種就職相談等も行うことで、京都府北部圏内事業所の人材不足解消を図るとともに、北部7市町への移住・定住を促進する。</p>	
<p>2 事業の内容</p> <p>北部7市町内事業所による合同企業説明会を京都市内で開催 日時：令和元年5月23日（木） 会場：京都市勧業館みやこめっせ（京都市左京区） 参加事業者数：146事業所（内、福知山市60事業所）</p>	
決算額	負担金 458 千円（京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会負担金） 負担金 2,465 千円 賃金 308 千円 計 3,231 千円
K P I	（目標）交流人口地域消費額 2,182,300 千円 ⇒ （結果）2,507,782 千円 （目標）空き家バンクを活用した移住世帯数 5 世帯 ⇒（結果）12 世帯 （目標）高等教育機関等卒業者の圏域内定着者数 28 人 ⇒（結果）25 人
<p>3 事業の成果</p> <p>当日は求職者89名が参加し、その内13名の求職者が説明会参加事業所への就職につながった。</p>	
<p>4 課題</p> <p>京阪神の大学等の未就職卒業予定者に対しての今まで以上のアプローチや開催時期の検討などが必要と考える。</p>	
<p>5 R2年度以降の予定</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルスへの対応のため、オンライン形式で開催する。今後は状況を見ながら検討していく。</p>	

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	就職内定者数	人	47/40	85/40	36/40
	ワークショップ参加 高校生数	人	125/150	235/150	184/150
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	就職面接会 参加企業数	社	174/160	443/160	429/160
	就職面接会参加者数	人	273/300	776/250	498/200
担当課による評価	C (効果があった)				
評価をつけた理由	企業説明会を通じて13名の採用に結びついた。				

R1 地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」					
事業名	移住・定住促進事業				
担当課	まちづくり推進課				
予算額	1146 千円				
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>京都府北部 7 市町で構成する「京都府北部地域連携都市圏」を、移住や定住にふさわしい圏域として「地域ブランド」を確立することにより、必要とする人材の確保及び地域の振興につなげることを目的とする。</p> <p>2 事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府北部の各市町で個々に活動している団体（者）の都市部と北部地域における関わりをつくる企画支援およびイベントの運営・実施 ・市町担当職員向けに、当該業務のあり方や今後の方向性について検討するワークショップの運営・実施 					
決算額	負担金 1,146,000 円（内訳：連携都市圏への負担金） 計 1,146,000 円				
K P I	（目標）交流人口地域消費額 2,182,300 千円 ⇒（結果）2,507,782 千円 （目標）空き家バンクを活用した移住世帯数 5 世帯 ⇒（結果）12 世帯 （目標）高等教育機関等卒業者の圏域内定着者数 28 人 ⇒（結果）25 人				
<p>3 事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住関係部門の担当者が情報共有しあえる関係性が構築された。 ・官民で連携し、移住に関連の深い、関係・事業を創るコンテンツづくりが実践できた。（市町担当職員向けワークショップ開催 2 回） ・この事業からできたコンテンツを、移住イベントとして実施し、その流れもできた。（京都北部プロジェクト博覧会@京都市） <p>4 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田園回帰志向が進み、市町が本事業のスタート時よりもそれぞれの施策の方向性を見出し進めていく中で、どういうスケールメリットを活かし、また一つの圏域として効果的な施策につなげるかについて、これまでの施策を再構築する必要がある。 <p>5 R2 年度以降の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで行ってきたプレイヤー事業の流れを活かし、事業終了後も、民間を主体に自治体と協働で持続可能な移住者の呼込ができるよう事業の基盤を固める。 					
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	制度利用による 定住者数	人	10/20	34/20	31/20
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	新規移住希望者 名簿登録数	件	65/100	81/100	97/100
	HP 閲覧回数	回	17,725/10,000	22,641/10,000	32,419/10,000

担当課による評価	B（相当程度効果があった）
評価をつけた理由	「京都」というブランドの中でも自然豊かな北部を選択する都市部からの移住希望者は多く、本市でも移住者（空き家バンク利用者数）は増加しており（H28:33名、H29:10名、H30:44名、R1:35名）相当程度効果があったと評価する。

R1 地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」					
事業名	広域連携推進事業				
担当課	経営戦略課				
予算額	2,203 千円				
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>近隣市町や京都府、その他府県等との連携により、広域課題等に対し効率的、効果的な施策を展開し、中核市並みのサービスを連携都市圏域内に展開する。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>○「京都府北部地域連携都市圏」（構成：福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会、幹事会、各部会等を開催し、連携ビジョン等の作成、アクションプランの策定等を行う。 ・連携ビジョンに従い、地方創生推進交付金を活用しながら各種事業を推進する。 					
決算額	負担金 2,203,000 円（内訳：連携都市圏への負担金） 計 2,203,000 円				
KPI	（目標）交流人口地域消費額 2,182,300 千円 ⇒（結果）2,507,782 千円 （目標）空き家バンクを活用した移住世帯数 5 世帯 ⇒（結果）12 世帯 （目標）高等教育機関等卒業生の圏域内定着者数 28 人 ⇒（結果）25 人				
<p>3 事業の成果</p> <p>圏域内住民に学びの場を広く提供することを目的として、生涯学習講座を各市町において福知山公立大学と連携して計 4 回、「健康長寿の地域づくりの未来」「超高齢社会の地域交通の未来」「多文化共生と防災の未来」「地域コミュニティと自治の未来」をテーマに開催した。</p> <p>また、行政サービスのシームレス化を図るために、北部 7 市町間での図書館の相互利用の促進を図った。</p> <p>4 課題</p> <p>地方創生推進交付金が終了する R3 以降も、広域連携としてそれぞれの市町がどう関わっていくかを第 2 期連携ビジョンの策定も含めて早い段階で検討していく必要がある。</p> <p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>引き続きアクションプランに基づき、産業、観光・交通、教育、移住定住、エネルギー・防災行政サービス分野において事業を推進していく。</p>					
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	広域連携による事業数	事業	5/4	6/6	8/8
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	広域連携に関する各市 理事者による協議	回	3/5	4/5	5/5

担当課による評価	B（相当程度効果があった）
評価をつけた理由	図書館の相互利用では、福知山市立図書館において 2,892 人の北部圏域内住民の登録利用者があり、H30 年度（2,762 人）より増加しており、行政サービスシームレス化を進める事業として、相当程度効果があったと評価する。

R1 地方創生推進交付金「京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業」																															
事業名	福知山公立大学「知の拠点」推進事業																														
担当課	大学政策課																														
予算額	7,000 千円																														
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮するとともに、市民の「知の拠点」の役割を果たすため、地域連携・地域協働を推進するための取り組みを支援する。</p>																															
<p>2 事業の内容</p> <p>京都府北部地域連携都市圏等の地域連携事業を支援し、地域協働・地域連携活動を推進した。</p>																															
決算額	<table border="0"> <tr> <td>賃金</td> <td>2,198,189 円</td> <td>(内訳：臨時職員・コーディネーター人件費)</td> </tr> <tr> <td>報償費</td> <td>209,618 円</td> <td>(内訳：講師謝礼)</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>252,174 円</td> <td>(内訳：講師交通費)</td> </tr> <tr> <td>需用費</td> <td>2,565,226 円</td> <td>(内訳：消耗品、印刷製本、)</td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td>151,752 円</td> <td>(内訳：通信運搬、保険料)</td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td>149,800 円</td> <td>(内訳：設計計画図作成、報告書作成業務)</td> </tr> <tr> <td>使用料及び賃借料</td> <td>1,181,793 円</td> <td>(内訳：まちかどキャンパス家賃・駐車場)</td> </tr> <tr> <td>備品購入費</td> <td>229,329 円</td> <td>(内訳：図書購入)</td> </tr> <tr> <td>負担金補助及び交付金</td> <td>62,120 円</td> <td>(内訳：自治会費、参加費)</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: right;">計 7,000,000 円</td> </tr> </table>	賃金	2,198,189 円	(内訳：臨時職員・コーディネーター人件費)	報償費	209,618 円	(内訳：講師謝礼)	旅費	252,174 円	(内訳：講師交通費)	需用費	2,565,226 円	(内訳：消耗品、印刷製本、)	役務費	151,752 円	(内訳：通信運搬、保険料)	委託料	149,800 円	(内訳：設計計画図作成、報告書作成業務)	使用料及び賃借料	1,181,793 円	(内訳：まちかどキャンパス家賃・駐車場)	備品購入費	229,329 円	(内訳：図書購入)	負担金補助及び交付金	62,120 円	(内訳：自治会費、参加費)	計 7,000,000 円		
賃金	2,198,189 円	(内訳：臨時職員・コーディネーター人件費)																													
報償費	209,618 円	(内訳：講師謝礼)																													
旅費	252,174 円	(内訳：講師交通費)																													
需用費	2,565,226 円	(内訳：消耗品、印刷製本、)																													
役務費	151,752 円	(内訳：通信運搬、保険料)																													
委託料	149,800 円	(内訳：設計計画図作成、報告書作成業務)																													
使用料及び賃借料	1,181,793 円	(内訳：まちかどキャンパス家賃・駐車場)																													
備品購入費	229,329 円	(内訳：図書購入)																													
負担金補助及び交付金	62,120 円	(内訳：自治会費、参加費)																													
計 7,000,000 円																															
K P I	<p>(目標) 交流人口地域消費額 2,182,300 千円 ⇒ (結果) 2,507,782 千円</p> <p>(目標) 空き家バンクを活用した移住世帯数 5 世帯 ⇒ (結果) 12 世帯</p> <p>(目標) 高等教育機関等卒業生の圏域内定着者数 28 人 ⇒ (結果) 25 人</p>																														
<p>3 事業の成果</p> <p>北近畿地域を舞台とする北近畿創生フューチャーセッションなど様々な地域連携事業を通じて北近畿地域の行政機関、教育機関、企業、各種団体等とのネットワークを形成した。</p>																															
<p>4 課題</p> <p>京都府北部地域を対象とした地域連携事業の積極的な展開が必要である。</p>																															
<p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>今年度従来の「北近畿地域連携センター」を「北近畿地域連携機構」に改組し、「研究部」、「市民学習部」、「まちかどキャンパス部」の3部門を設置することで、今まで以上に受託研究や共同研究等を行っていく。</p>																															

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単 位	H29	H30	R1
		福知山公立大学の社会 人向け講座受講者数	人	1604/200	1598/300
	新学部設置		構想策定/構想 策定	認可申請書提出/ 認可申請書提出	設置認可済/設 置認可
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	地域と大学の連携取組 数(包括協定締結数)	件	6/10	15/10	15/10
	新学部入学者数	人	-	-	212/200
担当課による評価		A(非常に効果があった)			
評価をつけた理由		<p>市民レベルで北近畿地内の課題解決を模索するプラットフォームの形成を目的に北近畿創生フューチャーセッションを4回開催し、合計182名の参加があった。</p> <p>また、まちかどキャンパスを大学主催の事業やゼミ活動、学生企画の事業などの取り組みの場として活用した。</p>			

R1 地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人材・産業育成事業」	
事業名	福知山公立大学「知の拠点」推進事業
担当課	大学政策課
予算額	16,200 千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮するとともに、市民の「知の拠点」の役割を果たすため、地域連携・地域協働を推進するための取り組みを支援する。また、令和2年度開設の情報学部の設置業務を支援する。</p>	
<p>2 事業の内容</p> <p>兵庫県朝来市・丹波市との地域連携事業費を支援し、地域協働・地域連携活動を推進した。また、新学部設置に係る外部有識者を含む委員会の運営及び、情報学部フォーラムの開催を支援した。</p>	
決算額	賃金 2,651,907 円 (内訳：臨時職員、コーディネーター賃金) 報償費 542,454 円 (内訳：講師謝金、新学部設置準備委員会委員謝金) 旅費 1,307,558 円 (内訳：新学部設置に係る旅費) 需用費 2,424,022 円 (内訳：新学部パンフレット等作成) 役務費 2,523,358 円 (内訳：郵送料) 委託料 5,117,603 円 (内訳：デザイン等委託) 使用料及び賃借料 217,336 円 (内訳：会場・駐車場使用料) 備品購入費 1,415,762 円 (内訳：図書、タブレット) 計 16,200,000 円
KPI	(目標) 圏域内観光主要施設売り上げ額 1,100,000 千円 ⇒ (結果) 1,452,669 千円 (目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 25 人 ⇒ (結果) 42 人 (目標) 人口社会増 △100 人 ⇒ (結果) △383 (目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 25 人 ⇒ (結果) 9 人
<p>3 事業の成果</p> <p>令和2年4月の情報学部の設置認可を受け、文理2学部入学定員200名体制を実現した。また、北近畿地域を舞台とする北近畿創生フューチャーセッションなど様々な地域連携事業を通じて北近畿地域の行政機関、教育機関、各種団体等とのネットワークを形成した。</p>	
<p>4 課題</p> <p>兵庫県北部地域を対象とした地域連携事業の更なる積極的な展開が必要である。</p>	
<p>5 R2年度以降の予定</p> <p>今年度従来の「北近畿地域連携センター」を「北近畿地域連携機構」に改組し、「研究部」、「市民学習部」、「まちかどキャンパス部」の3部門を設置することで、今まで以上に受託研究や共同研究等を行っていく。</p>	

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	福知山公立大学の 社会人向け講座受 講者数	人		1604/200	1598/300
新学部設置			構想策定/構想策 定	認可申請書提出/ 認可申請書提出	設置認可済/設 置認可
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	地域と大学の連携 取組数(包括協定 締結数)	件	6/10	15/10	15/10
	新学部入学者数	人	-	-	212/200
担当課による評価		A (非常に効果があった)			
評価をつけた理由		令和元年11月に文部科学省から情報学部の令和2年4月の設置認可を受け、文理2学部入学定員200名体制を実現した。			

R1 地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人材・産業育成事業」	
事業名	福知山市伝統文化後継者育成事業
担当課	文化・スポーツ振興課
予算額	1,400 千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>丹波漆、丹後和紙等の伝統技術、工芸製品は市民の「心の豊かさ」や「地域の魅力」を創造し、本市の歴史・文化の個性と魅力を引き出す観光・地域資源となっている。この貴重な伝統文化を未来へ継承するため新たな後継者の育成を図る。</p>	
<p>2 事業の内容</p> <p>本市に伝承される伝統的な工芸・技術を文化としてまた地域産業として継承させるため、後継者育成に係る生産者及び伝承活動団体等の事業に対し支援を行う。</p> <p>(1) 後継者の育成支援 後継者 1 人につき 3 年を限度に補助金を交付する。 月額上限 50 千円、年額 600 千円。</p> <p>(2) 後継者となる人材の発掘を目的とする伝統的工芸品等の製造に係る調査及び研究の体験研修等を行う事業に補助金を交付する。事業費の 1/2、上限 10 万円。</p>	
決算額	負担金補助及び交付金 334,000 円（後継者育成補助金） 計 334,000 円
K P I	<p>（目標）圏域内観光主要施設売り上げ額 1,100,000 千円 ⇒（結果）1,452,669 千円</p> <p>（目標）移住支援制度を利用し転入した人の数 25 人 ⇒（結果）42 人</p> <p>（目標）人口社会増 △100 人 ⇒（結果）△383</p> <p>（目標）企業支援制度を利用して起業した人の数 25 人 ⇒（結果）9 人</p>
<p>3 事業の成果</p> <p>本市の誇る伝統文化（伝統技術、工芸製品）の伝承と後継者育成を図るとともに定住の促進に寄与している。</p> <p>本市の文化資源を有効に活用し、文化振興と本市伝統文化の後継者発掘促進を進めるため、体験活動や調査研究活動に対して補助金を交付した。</p>	
<p>4 課題</p> <p>本市の誇る伝統文化(伝統技術、工芸製品)の伝承と後継者育成を図るため、後継者の独り立ち、生業としての定着が求められる。</p>	
<p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>今後も継続して後継者となりうる人材の発掘や育成についての支援を行い、育成した人材を活用して文化振興を図る手法を探る。</p>	

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	伝統工芸に対する市民の 理解度 (新聞等掲載数)	件	-	4/3	4/3
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	年間勤務日数	日	170/240	168/240	168/240
	後継者の育成	人	1/1	1/1	2/1
担当課による評価	C (効果があった)				
評価をつけた理由	<p>伝統文化の後継者育成に一定の効果があったと判断している。</p> <p>伝統文化についての認知度を向上していくための取組が、十分に行えていない。</p>				

R1 地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人材・産業育成事業」					
事業名	観光地域づくりセンター運営事業				
担当課	産業観光課				
予算額	8,784 千円				
<p>1 事業の背景・目的 市内の過疎化や高齢化等により活力を失いつつある地域の地域資源と経営感覚のある事業者と繋いで、観光を切り口としながら持続可能な観光地域づくりを進める</p> <p>2 事業の内容 観光地域づくり事業を外部委託し地域の関係者や事業者を交え伴走型支援による事業展開を図る。</p>					
決算額	報償費 75,000 円	委託料 8,690,000 円			
		計 8,765,000 円			
KPI	<p>(目標) 圏域内観光主要施設売り上げ額 1,100,000 千円 ⇒ (結果) 1,452,669 千円</p> <p>(目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 25 人 ⇒ (結果) 42 人</p> <p>(目標) 人口社会増 △100 人 ⇒ (結果) △383</p> <p>(目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 25 人 ⇒ (結果) 9 人</p>				
<p>3 事業の成果 大原地区：大原活性化協議会と民間事業者で「産屋の里ウエディング事業の確立」自走化。 上六人部地区：上六活性化協議会での地域活性化イベントの計画（R1. 3 まち歩きイベントは新型コロナウイルス感染拡大により中止） 三岳地区：里のえきみたけを核として地域産品のブラッシュアップと販路開拓（ふるさと納税返礼品）</p> <p>4 課題 地域を動かす地域人材の確保や関係人口を如何にして増やしていくか課題。</p> <p>5 R2 年度以降の予定 事業期間を概ね三年としており該当地区は今年度で終了。今後地域を指定することなく取り組む方法や予算を伴わず実施していく手法などR2 年度に結論を出す。</p>					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	観光入込 客数	人	946,618 /960,000	927,086 /980,000	1,116,577/1,000,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	事業着手 地区数		2/3	3/3	3/3
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	伴走型で取り組んでおり、大原地区においては自走化できた。				

R1 地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人材・産業育成事業」	
事業名	次世代交流ワークショップ事業
担当課	まちづくり推進課
予算額	1,020 千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>高校卒業後、福知山を出る若者が多い中、高校生や大学生をはじめとした若い世代と幅広い世代の市民が福知山市のまちづくりや未来について意見を交わす場を創出し、若者と地域が関わるきっかけや、意見の抽出を図り、にぎわいと活気ある福知山の新時代を切り拓く人材育成を目的とする。</p>	
<p>2 事業の内容</p> <p>無作為抽出により募集、選出した高校生・大学生を中心とした市民が、グループ討議により福知山のまちづくりに関する多様な議題について意見を交わす「次世代交流ワークショップ」を大学と連携して開催する。</p>	
決算額	(補助対象事業費) 報償費 60,000 円 (コーディネーター謝礼) 需用費 63,505 円 (ワークショップ用消耗品等) 役務費 182,206 円 (郵送料) 計 305,711 円
K P I	(目標) 圏域内観光主要施設売り上げ額 1,100,000 千円 ⇒ (結果) 1,452,669 千円 (目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 25 人 ⇒ (結果) 42 人 (目標) 人口社会増 △100 人 ⇒ (結果) △383 (目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 25 人 ⇒ (結果) 9 人
<p>3 事業の成果</p> <p>74 人の若者を中心とした多様な参加者により、「明智光秀」や「SDGs」を切り口に福知山のまちづくりについて対話を深めることができた。</p> <p>公立大学や龍谷大学の学生がファシリテーターとして活躍し、若者を中心として福知山の未来について語り合う場を創出できた。</p>	
<p>4 課題</p> <p>単発のイベントとなっており、人材育成としての成果が見えにくい。</p>	
<p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>若者が主体となってまちの未来について語り、地域に関わるやってみたいことを見つけ実践する新たな事業を令和2年度より実施する。</p>	

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	アンケートで再度の参加を 希望した人の割合	%	97/60	86/70	79/70
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	ワークショップ参加者	人	94/100	98/100	74/100
	ワークショップ実施数	回	6/9	6/9	2/9
担当課による評価	B (4つの区分から選択)				
評価をつけた理由	参加者の満足度は高く、 98% が「良かった」、「まあまあ良かった」としており、対話の場・まちづくりについて考える場として一定の成果はあったと考える。				

R1 地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人材・産業育成事業」	
事業名	福知山産業支援事業
担当課	産業観光課
予算額	31,465千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>経営上の課題を抱える中小企業等のあらゆる問題の解決と売上向上に向けたビジネスの挑戦を事業者の目線に立って一緒になってチャレンジするための拠点として、福知山産業支援センターを運営し、これを核とした地域の活性化に向け全力で取り組む。</p>	
<p>2 事業の内容</p> <p>相談業務を中心とした支援を行う福知山産業支援センター「ドッコイセ!biz」においてあらゆる業種の事業所の相談に対応する。福知山産業支援センター「ドッコイセ!biz」の運営業務については、一般社団法人福知山産業支援機構へ業務委託をする。</p>	
決算額	<ul style="list-style-type: none"> ・旅費：598,110円 ・役員費：102,772円 ・使用料及び賃借料：116,376円 ・需用費：78,026円 ・委託料：25,497,744円 計26,393,028円
KPI	<p>(目標) 圏域内観光主要施設売上額 1,100,000千円 ⇒ (結果) 1,452,669千円</p> <p>(目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 25人 ⇒ (結果) 42人</p> <p>(目標) 人口社会増 △100人 ⇒ (結果) △383</p> <p>(目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 25人 ⇒ (結果) 9人</p>
<p>3 事業の成果</p> <p>相談件数については、令和元年度は979件（月平均81件）の相談を受けており、当初の目標を大きく上回る件数となっており、そのうち約9割はリピーターとして複数回相談に来られている。</p>	
<p>4 課題</p> <p>市内事業者や市民にも、センターの取り組みや成果を理解いただき、更に利用の拡大を図っていくことが必要である。また、他にある支援機関や大学と連携し、より広い分野における支援体制の実現が必要である。</p>	
<p>5 R2年度以降の予定</p> <p>今後は、成果につながる成功事例を増やしていくなかで、センターや行政、市内事業者や金融機関、大学といった様々な関係団体がさらに協力し合う様な仕組みを構築し、事業者の課題解決につながる事業の展開をセンターとともに図っていきたい。</p>	

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	販路拡大や売上 up 等に つながった件数/年	件	-	19/30	未測定
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	相談件数/月	件	91/30	79/30	82/30
担当課による評価		B (相当程度効果があった)			
評価をつけた理由		相談件数も当初目標を上回っており、売上アップや新商品開発などの成功事例も出てきているため。			

R1 地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人材・産業育成事業」					
事業名	肉のまち福知山事業				
担当課	産業観光課				
予算額	1,800 千円				
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>かつては全国三大家畜市場の一つに数えられた福知山家畜市場があり精肉店や焼き肉店が自然発生的に増えた歴史的背景がある。食（肉）を観光・交流コンテンツとして情報発信するためにイベントを実施。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>牛や豚、鳥、ジビエなど様々な肉を提供する飲食店を集めた「ふくちやまMEET×MEATフェスティバル」を開催</p>					
決算額	補助金 1,800,000 円		計 1,800,000 円		
KPI	<p>(目標) 圏域内観光主要施設売り上げ額 1,100,000 千円 ⇒ (結果) 1,452,669 千円</p> <p>(目標) 移住支援制度を利用し転入した人の数 25 人 ⇒ (結果) 42 人</p> <p>(目標) 人口社会増 △100 人 ⇒ (結果) △383</p> <p>(目標) 企業支援制度を利用して起業した人の数 25 人 ⇒ (結果) 9 人</p>				
<p>3 事業の成果</p> <p>イベントを開催し 10,000 人（主催者発表）の来場</p> <p>4 課題</p> <p>イベントを契機として店舗へ行ってもらう仕掛けや取り組みが課題</p> <p>5 R2年度以降の予定</p> <p>引き続きイベントを中心としたプロモーション活動を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりR2年度は中止、今後はイベントの在り方も含め再構築を図る。</p>					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	観光入込客数	人	946,618 /960,000	927,086 /980,000	1,116,577/ 1,000,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	イベント参加者数	人	中止	7000/3000	10,000/3,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	実施回数	回	0/1	1/1	1/1
担当課による評価		B（相当程度効果があった）			
評価をつけた理由		イベント集客が昨年度より増加したこと（+3,000人）また出店一店舗平均売上額がアップした（R1：17.4万円 H30：12.3万円）			

担当課による評価	B（相当程度効果があった）
評価をつけた理由	本市でも集客力の極めて高いイベントであり、60,000人が来場し、出展企業125者の半数以上が取引機会の拡大につながっているため。

R1 地方創生推進交付金「福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人材・産業育成事業」	
事業名	福知山PR戦略総合推進事業
担当課	秘書広報課
予算額	28,224 千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>市外に対しては福知山市のイメージ向上と関係人口の拡大、市内に対してはシビック・プライド（まちへの愛着や誇り）醸成を目的に、パブリック・リレーションズの手法を活用して、各ターゲットにあったPR活動を展開し、市のメッセージを届ける。当市とその活動に対する共感や具体的な行動を起こしてもらう人々を増やし、持続可能な地域経営を目指す。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>【重点/PR トピックス1】「知られざる明智光秀プロジェクト」・・・明智光秀主人公の2020大河ドラマに関連した中期的に展開するPR活動</p> <p>①特別大使クリス・ペプラーさんによる活動発表記者会見（東京） ②明智光秀イラスト作成/自販機市内展開 ③福知山城一日城主公募企画 ④福知山城現代大茶会 ⑤クリス・ペプラーさん主演のプロモーション動画作成 ⑥まるごとまちごとフォトスポット化計画 ⑦明智光秀×福知山 IDEABOOK 製作 ⑧アサヒビール福知山城デザイン缶第2弾販売 など</p> <p>【トピックス2】 「いがいと！福知山」・・・福知山のブランドメッセージを活用し市民の情報発信につなげるPR活動 ①市民PR講座 ②インスタフォトキャンペーン など</p> <p>【トピックス3】 「福知山市ファクトブック」「プロモーション用画像素材集」作成などによる全国メディアにアプローチ 職員PR研修 など</p> <p>【トピックス4】 福知山市ドッコイセ大使杉本敬三さんによる福知山の食の魅力発信 ① 市内給食プロデュース・講義 ②市内イベント参加 ③都内イベント開催など</p>	
決算額	PR 業務委託料 19,921,660 円 城活用プロジェクト委託料 3,693,600 円 JR 福知山駅ホームサインボード掲出料 994,080 円 ほか 計 27,816,244 円
KPI	（目標）圏域内観光主要施設売り上げ額 1,100,000 千円 ⇒（結果）1,452,669 千円 （目標）移住支援制度を利用し転入した人の数 25 人⇒（結果）42 人 （目標）人口社会増 △100 人 ⇒（結果）△383 （目標）企業支援制度を利用して起業した人の数 25 人⇒（結果）9 人

3 事業の成果

令和2年度までを、重点PR活動期間と位置づけ、戦略的なPR活動を行う。

戦略的PRとは、目的達成のために、限られた条件のなかで最大限効果を獲得するための一連の計画・活動のことをいう。

上記の考えのもと、令和元年度は「知られざる明智光秀プロジェクト」を重点PRトピックスとし、特に大河ドラマ放送開始までの間、本市を代表する明智光秀ゆかりの資源である福知山城を活用し、明智光秀の未知の魅力を積極的に発信した。

結果当PR事業に関する新聞・TV・Web記事は約300件、広告換算額では約1.1億円（一日城主、茶会に関する143件のみ算出）、より範囲を広げ「福知山 明智光秀」の単語が両方掲載された記事件数は約1,000件、広告換算額では約2.5億円（紙媒体565件のみ算出）に及び、メディアを通じた情報発信は現状成功していると評価する。

一方で首都圏での認知・イメージは令和元年12月調査時点ではまだ数値向上が見られなかった。情報発信を第一歩としてその先の市内外の人々のイメージ・行動変容に結び付くPR活動を行う。令和2年調査で再び測る。

4 課題

課題としては、コロナウイルス感染症のようにPRは社会情勢に強く影響されるため、社会とのコミュニケーションを図り、今立てている計画も臨機応変に変更して、最も効果的なPR活動を選択し実施していく。

5 R2年度以降の予定

令和2年度は、大河ドラマ放送終了年でもあり、明智光秀と本市のゆかりを発信してきた活動の集大成の年になることから、これまでの蓄積を活かし「明智光秀が築いた城下町 福知山」のブランドイメージを強化する。また、「明智光秀が築いた城下町 福知山」ブランドを引き続き活かしつつ、明智光秀の「知られざる魅力」、福知山の礎を築いた光秀の「過去のまちづくり」に加え、「スポーツ」、「こども/子育て」など特色ある「現在のまちづくり」を組み合わせたPR戦略を展開していく。

成果実績	指標	単位	H29	H30	R1
(アウトカム) 実績/当初目標	Instagram「#いがいと福知山」投稿件数	件	1268 (3か月)	7311	12525/8000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	プレスリリース配信	件	4/4	10/10	22/10
	メディア記事掲載件数	回	107/100	207/150	307/300

担当課による評価

A（非常に効果があった）

評価をつけた理由

令和元年度は大河ドラマ「麒麟がくる」の放送開始年度ということもあり、「知られざる明智光秀プロジェクト」を重点PRトピックスとし、明智光秀ゆかりの資源である福知山城を中心にPR活動を実施することができた。新聞等への記事掲載件数や広告換算額は上記成果に記載のとおりとなっており、メディアを通じた情報発信は成功していると評価する。

R1 地方創生推進交付金「今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業」					
事業名	「森の京都」DMO事業				
担当課	産業観光課				
予算額	9,124 千円				
1 事業の背景・目的 豊かな森が存在する亀岡市から福知山市の京都府中部地域において、生命と文化を育んできた「森」を多様な角度から捉え、森の文化の発信などを通して観光地域づくりを推進し地域活性化を図るため森の京都DMOを組織して観光誘客による地域活性化を図る。					
2 事業の内容 一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）に対する自治体負担金					
決算額	森の京都DMOへの負担金 9,124,000 円				計 9,124,000 円
KPI	（目標）観光消費額 2,062,500 千円 ⇒（結果）2,507,782 千円				
3 事業の成果 京都府中部全体で観光による地域づくり、地域活性化のための施策を展開 R1 主要事業 ・着地型旅行商品造成 ・インバウンド誘客 ・食の観光の推進 ・観光プロモーション ・観光データ収集・分析					
4 課題 福知山市への経済効果及び費用対効果が明確な数値として表しにくい。 2つのDMOへの費用負担、事務調整などメリット、デメリットを整理していく。					
5 R2年度以降の予定 引き続き森の京都DMOと連携し広域観光やプロモーションで誘客を図っていく。					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	観光入込客数	人	946,618 /960,000	927,086 /980,000	1,116,577 /1,000,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	地域人材育成 研修回数	回	5/8	3/8	3/8
担当課による評価	B（相当程度効果があった）				
評価をつけた理由	海の京都のプロモーション活動と大河ドラマ効果もあり平成23年以來8年ぶりに観光入込客数100万人を突破。				

R1 地方創生推進交付金「大河ドラマ『麒麟がくる』を契機にした「城下町」レガシープロジェクト	
事業名	明智光秀プロジェクト推進事業
担当課	秘書広報課
予算額	103,163 千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>2020年の大河ドラマ「麒麟がくる」の放送を契機に、明智光秀ゆかりの地 福知山市の歴史・文化を全国に発信するとともに、観光誘客による産業・商業の活性化を図り、市民が主人公となったまちづくりを進める。</p>	
<p>2 事業の内容</p> <p>平成30年9月に設立された官民連携組織である「福知山光秀プロジェクト推進協議会」が実施する下記事業への負担金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福知山光秀ミュージアム整備運営、広報・PR、団体連携、土産物販売所設置運営等 	
決算額	福知山光秀プロジェクト推進協議会への負担金支出 97,312,000 円 福知山城駐車場整備工事 3,562,900 円 ほか 計 102,629,424 円
KPI	(目標) 関連観光スポットの観光要入込客数 446,214 人 ⇒ (結果) 256,295 人 (目標) 関連観光スポットの観光消費額 383,641 千円 ⇒ (結果) 185,727 千円
<p>3 事業の成果</p> <p>大河ドラマ放送前においては、交通・宿泊・飲食事業者を対象としたおもてなし講座や著名な講師陣による明智光秀連続講座の開催、市内外でのイベント、協議会HPなどを通じて明智光秀と本市のゆかりなど歴史・文化を発信するとともに市民のおもてなし機運の醸成を進めた。</p> <p>また、大河ドラマを契機に明智光秀とのゆかりを発信する市民や団体の主体的な活動に対する光秀プロジェクト補助金についても広がりを見せている。</p> <p>2020年1月の大河ドラマ「麒麟がくる」の放送開始後は福知山光秀ミュージアムを開館し、団体客・個人客の誘客に取り組み、目標入館者数 100,000 人に向けて想定を上回るペースで推移していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3月11日～5月末まで臨時休館となった。</p> <p>上記の活動を通じて、活動の目的である明智光秀ゆかりの地 福知山市の歴史・文化の発信や観光誘客による産業・商業の活性化、また、市民の主体的な参画についても順調に進んでいると評価している。</p>	
<p>4 課題</p> <p>福知山光秀ミュージアムの入館者が想定を上回るペースで順調に推移していたが、3月に入り新型コロナウイルスの影響を受け、5月末まで臨時休館措置をとることになった。6月1日からようやく再開できたものの、新型コロナウイルス感染拡大防止のため入場時の検温や手指の消毒といった基本的な対策のほか「3つの密」を回避するため入場制限を設けるなど段階的な再開となっており、目標である福知山光秀ミュージア</p>	

ムの入館者数 100,000 人の達成に向けて難しい舵取りが求められている。

5 R2年度以降の予定

令和2年度は、大河ドラマ「麒麟がくる」の舞台が丹波地方に移ると思われることから、新型コロナウイルスによる困難な状況の中でも、訪れる方から福知山市が素晴らしかったといってもらえるおもてなし、魅力ある商品開発やサービスによる商業・経済の活性化を図り、まち全体で「大河レガシー」をつくるべく、ゆかりのまちの盛り上がり努める。

	指標	単位	H29	H30	R1
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	観光入込客数	人	946,618 /960,000	927,086 /980,000	1,116,577/ 1,000,000
	福知山光秀ミュージアム入館者数	人	0	0	22660/23100
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	実行委員会開催回数	回	-	8	10/12
	団体連携件数(光秀PJ補助金)	件	-	-	11/17
担当課による評価		A(非常に効果があった)			
評価をつけた理由		大河ドラマという広く認知された素材を活かした取り組みは福知山市では初めてのことであり、地方創生推進交付金を活用し「福知山光秀ミュージアム」を核に様々な情報発信やイベントを通じて市民とともに盛り上がる事ができた効果は高かったと評価する。			

R1 地方創生推進交付金「大河ドラマ『麒麟がくる』を契機にした「城下町」レガシープロジェクト	
事業名	大河ドラマ「麒麟がくる」推進事業
担当課	秘書広報課
予算額	1,134 千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>2020 年の大河ドラマが戦国武将明智光秀を主人公にした「麒麟がくる」に決定したことを受け、明智光秀・細川ガラシャ・幽斎・忠興にゆかりの地域で連携して当地域の文化や情報を発信し地域の活性化を図る。</p>	
<p>2 事業の内容</p> <p>大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会への負担金</p> <p>【大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会】構成市町：福知山市（事務局）、舞鶴市、綾部市、宮津市、亀岡市、長岡京市、京丹後市、大山崎町、丹波市、丹波篠山市、若狭町、京都府</p> <p>事業概要：NHK 京都放送局との連携事業、首都圏ほか P R 活動、広告出稿、パンフレットの作成、旅行者・メディア向けアプローチ、協議会ホームページによる情報発信など</p>	
決算額	大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会への負担金支出 750,000 円 会議・イベント従事に係る旅費 110,990 円 ほか 計 919,594 円
K P I	(目標) 関連観光スポットの観光要入込客数 446,214 人 ⇒ (結果) 256,295 人 (目標) 関連観光スポットの観光消費額 383,641 千円 ⇒ (結果) 185,727 千円
<p>3 事業の成果</p> <p>お城 EXPOin 横浜など各種イベント出展・広告出稿による圏域情報の発信、ツーリズム EXPO ジャパン in 関西やファミトリップ等を通じた旅行者への旅行造成に向けた働きかけ、NHK 京都放送局との連携によるスマホ de スタンプラリーの実施など、本市の観光振興と地域活性化に向けた活動を実施できた。</p> <p>広域の協議会であるため、市内よりも市外での情報発信が中心となることから、福知山城や福知山光秀ミュージアム、明智藪、御霊神社といった本市の大河ゆかりのスポットの市外における認知度向上に寄与したものと評価する。</p>	
<p>4 課題</p> <p>大河ドラマ「麒麟がくる」の物語が岐阜エリアで始まったこともあり、大河ドラマゆかりの地の印象が岐阜県優位な状況にあるため、今後は京都・丹波の歴史・文化をさらに発信し、本市のさらなる認知度の向上、誘客促進、周遊対策に重点をおいて事業を展開していく必要がある。</p>	
<p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>大河ドラマファン層の拡大のためには岐阜県・滋賀県等とも連携し、魅力ある情報を</p>	

発信し、相互で誘客促進に取り組んでいく。

また、大河ドラマ出演者の等身大パネル、VR借用や大河ドラマ関係者のトークショーといったNHK独自コンテンツ活用などNHK京都放送局との連携や首都圏での歴史講座の開催など広域協議会の強みを活かした取り組みをさらに進めていく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	スタンプラリー福知山光秀ゆかりコース参加者数	人	0	0	595/1740
署名人数	人	3226/3000	296/3000	-	
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	大河ドラマPRキャンペーン数(市内)	回	6/10	9/10	7/10
	署名箱設置箇所数(市内)	箇所	13/15	13/15	-
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	京都府、兵庫県、福井県にまたがる12の府市町が、大河ドラマゆかりの地というつながりで地方創生推進交付金を活用し、情報発信や誘客に向けた活動を合同で展開したことは、府県域を超えて広域連携し地域活性化につなげた数少ない事例であったと評価する。				

R1 地方創生推進交付金「大河ドラマ『麒麟がくる』を契機にした「城下町」レガシープロジェクト																						
事業名	福知山城観光誘客強化事業（ソフト分）																					
担当課	文化・スポーツ振興課																					
予算額	10,463 千円																					
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>本市のシンボルである福知山城の魅力を再確認して、市内外に発信し、市民の愛着と誇りを育み、知名度アップやイメージ向上を図る。また、2020 年大河ドラマの放送に伴い、多くの来場者が見込まれるため、更なる普及活動の展開及び施設整備等の環境整備を図る。</p> <p>2 事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福知山城パンフレット多言語版作成や展示ケースの内装修繕、展示パネルのリニューアルを行う。 ・福知山光秀ミュージアムで展示を行う重要資料の運搬を専門業者に委託する。 																						
決算額	<table> <tr> <td>旅費</td> <td>114,260 円</td> <td>（資料借用打ち合わせ等）</td> </tr> <tr> <td>需用費</td> <td>5,259,839 円</td> <td>（消耗品、パンフレット印刷、展示ケース修繕）</td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td>71,920 円</td> <td>（郵送料、手数料）</td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td>2,565,330 円</td> <td>（美術運送他）</td> </tr> <tr> <td>使用料及び賃借料</td> <td>438,960 円</td> <td>（スポットクーラーレンタル、資料借用）</td> </tr> <tr> <td>備品購入費</td> <td>1,894,585 円</td> <td>（移動式エアコン購入）</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: right;">計 10,344,894 円</td> </tr> </table>	旅費	114,260 円	（資料借用打ち合わせ等）	需用費	5,259,839 円	（消耗品、パンフレット印刷、展示ケース修繕）	役務費	71,920 円	（郵送料、手数料）	委託料	2,565,330 円	（美術運送他）	使用料及び賃借料	438,960 円	（スポットクーラーレンタル、資料借用）	備品購入費	1,894,585 円	（移動式エアコン購入）	計 10,344,894 円		
旅費	114,260 円	（資料借用打ち合わせ等）																				
需用費	5,259,839 円	（消耗品、パンフレット印刷、展示ケース修繕）																				
役務費	71,920 円	（郵送料、手数料）																				
委託料	2,565,330 円	（美術運送他）																				
使用料及び賃借料	438,960 円	（スポットクーラーレンタル、資料借用）																				
備品購入費	1,894,585 円	（移動式エアコン購入）																				
計 10,344,894 円																						
K P I	<p>（目標）関連観光スポットの観光要入込客数 446,214 人⇒（結果）256,295 人</p> <p>（目標）関連観光スポットの観光消費額 383,641 千円⇒（結果）185,727 千円</p>																					
<p>3 事業の成果</p> <p>福知山城パンフレット多言語版（4 言語、計 40,000 部）の作成、館内の展示パネル（4 3 枚）をリニューアル、展示ケース・展示台のクロス貼替修繕などを実施するとともに、スポットクーラー4 台をレンタル、館内に設置するなど来場者が快適に見学できる環境整備を進めた。</p> <p>4 課題</p> <p>継続的に集客できるよう情報発信を行うとともに、福知山城だけでなく周辺施設へも訪れていただけるよう仕掛けを行っていく必要がある。</p> <p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>大河ドラマの放送に伴い、来館者の増加が続くと見込まれているため、R1 年度に引き続き、情報発信を行うとともに、安全で快適な環境の維持を行う。</p>																						

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	入館者数	人	0	40,072/38,000	100,000/50,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	開館日数	日	-	287/310	313/323
担当課による評価		C (効果があった)			
評価をつけた理由		R 1年度の入館者数が、開館以降初めて年間10万人を超え、各種メディアにも取り上げられるなど知名度が向上している。			

R1 地方創生推進交付金「大河ドラマ『麒麟がくる』を契機にした「城下町」レガシープロジェクト					
事業名	福知山城観光誘客強化事業（ハード分）				
担当課	文化・スポーツ振興課				
予算額	29,100 千円				
1 事業の背景・目的 本市のシンボルである福知山城の魅力を再確認して、市内外に発信し、市民の愛着と誇りを育み、知名度アップやイメージ向上を図る。2020 年大河ドラマの決定を受け、多くの来場者が見込まれるため、更なる普及活動の展開及び施設整備等の環境整備を図る。					
2 事業の内容 福知山城のライトアップについては、天守閣本体をハロゲン灯 10 基で照らしており、今回灯体の LED 化と合わせてライトアップのリニューアルを実施する。					
決算額	委託料	4,471,038 円（ライトアップリニューアル）			
	工事請負費	12,702,700 円（福知山城高圧受電設備更新、入口改修）			
		計 17,173,738 円			
K P I	（目標）関連観光スポットの観光要入込客数 446,214 人⇒（結果）256,295 人 （目標）関連観光スポットの観光消費額 383,641 千円⇒（結果）185,727 千円				
3 事業の成果 福知山城のライトアップ設備について、照明の LED 化と合わせて照明デザイナーによるリニューアルを行い、福知山城の魅力の向上を行った。 リニューアル後は、天守閣本体を LED 灯 11 基、東側の石垣を LED 灯 12 基、釣鐘門を LED 灯 1 基でライトアップを行っている。					
4 課題 昭和 62 年に天守閣が再建され、経年劣化による修繕箇所も多くみられる。計画的な補修などの維持管理が必要。					
5 R2 年度以降の予定 適切な維持管理を行い、来場者が安全に観覧できる施設として維持していく。					
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	入館者数	人	0	40,072/38,000	100,000/50,000
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	開館日数	日	-	287/310	313/323
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	R1 年度の入館者数が、開館以降初めて年間 10 万人を超え、各種メディアにも取り上げられるなど知名度が向上している。				

R1 地方創生推進交付金「大河ドラマ『麒麟がくる』を契機にした「城下町」レガシープロジェクト	
事業名	やくの木と漆の館事業
担当課	夜久野支所
予算額	3,609 千円
1 事業の背景・目的	<p>福知山夜久野地域は、古来日本でも有数の漆の産地であり、人々の暮らしを支えてきた生業は漆掻きであった。そんな夜久野の歴史を残し、伝えていくことを目的に「やくの木と漆の館」は設置され、丹波漆の伝統継承と漆産業の振興を目的に設立された「NPO法人丹波漆」と連携を図りながら、丹波漆を使った夜久野ならではの製品を作り、漆の絵付け体験、金継ぎ教室及び蒔絵教室を開催するなど、丹波漆の良さを伝える場や機会を提供する施設として運営している。</p>
2 事業の内容	<p>漆に関する資料展示、漆芸作家の作品を展示する企画展の開催、漆器の制作及び販売、漆塗り体験者への指導、金継ぎ教室及び蒔絵教室の開催など</p>
決算額	<p>需用費・原材料費（2,206,542 円）消耗品、木地等加工材料など 報償費・旅費・負担金補助及び交付金（610,800 円）講師謝礼、年会費など 役務費（214,183 円）観光リーフレット広告料、展示品盗難保険料など 使用料及び賃借料（82,961 円）複写機使用料など 備品購入費・工事請負費（216,605 円）漆乾燥装置など 計 3,331,091 円</p>
K P I	<p>（目標）関連観光スポットの観光要入込客数 446,214 人⇒（結果）256,295 人 （目標）関連観光スポットの観光消費額 383,641 千円⇒（結果）185,727 千円</p>
3 事業の成果	<p>丹波漆の伝承と、漆塗りや漆の絵付けなど様々な漆芸が学べる体験型施設として運営するとともに、漆器の制作販売や、漆芸作家作品等の展示、各種資料展示、体験教室などを通じて地域文化の活性化を図った。</p>
4 課題	<p>「道の駅農匠の郷やくの」の他の施設をはじめ、本市の他の施設と連携を図り、相乗効果による施設利用者増を検討する必要がある。</p>
5 R2年度以降の予定	<p>引き続き丹波漆の伝承館として、新たな商品開発や夜久野産丹波漆を使用した漆器等により丹波漆の情報を発信し、入館者数、売上げの増加を目指す。その後も道の駅「農匠の郷やくの」の特徴ある施設として他の施設や団体と協働し、夜久野エリア全体の集客増を図るとともに、これまでになかった販路開拓を行う。</p>

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
		入館者数	人	1,289 /1,500	1,194/1,500
	蒔絵・金継ぎ教室参加者	人	234/220	216/250	187/300
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	蒔絵・金継ぎ教室開催	日	31/33	32/33	30/33
	企画展等開催	回	8/12	11/12	5/12
担当課による評価	C (効果があった)				
評価をつけた理由	<p>① 入館者数 1,364 人 (前年度 1,194 人)、②通常体験者数 1,375 人 (前年度 1,360 人) ③体験教室 205 人 (前年度 216 人)、④売上額 1,871 千円 (前年度 2,299 千円)</p> <p>①②について、前年度より利用者が増加しているため。(④減少については、福知山市の記念品としての利用減によるもの、③の減少については、2、3 月コロナ対応で教室を休止したためのものである。)</p>				

R1 地方創生推進交付金「大河ドラマ『麒麟がくる』を契機にした「城下町」レガシープロジェクト					
事業名	和紙伝承館管理事業				
担当課	大江支所				
予算額	1,955 千円				
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>福知山市大江地域は、古くから地場産業として和紙づくりが行われ、府内の代表的な和紙生産地であった。伝統地場産業として、また、貴重な文化として育まれてきた「丹後手すき和紙」の歴史や生産技術等を展示公開し、あわせ手すき和紙製作体験の場を提供する施設として運営する。</p> <p>2 事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後手すき和紙の歴史や生産技術等の展示公開を行う。 ・手すき和紙製作体験を行う。 ・地域資源として観光入込客の受け入れを行う。 					
決算額	賃金 663,623 円（受付等臨時職員賃金） 需用費 248,276 円（光熱水費他） 役務費 57,552 円（通信運搬費他） 委託料 1,021,868 円（手すき和紙製作体験、和紙関連作品企画展示業務他） 計 1,991,319 円				
K P I	（目標）関連観光スポットの観光要入込客数 446,214 人⇒（結果）256,295 人 （目標）関連観光スポットの観光消費額 383,641 千円⇒（結果）185,727 千円				
<p>3 事業の成果</p> <p>伝統的な手すき和紙を広く伝えるため、和紙関連作品の企画展示会を年4回開催する。また、手漉き和紙製作体験を年間通して開催する。</p> <p>施設開館日（土日・祝日）121 日間 入館者数 741 名 ・ 手すき和紙製作体験者数 305 名</p> <p>4 課題</p> <p>他施設との連携を図り相乗効果による施設利用者増を検討する必要がある。</p> <p>5 R2年度以降の予定</p> <p>引き続き、丹後手すき和紙の生産技術等の展示公開、手すき和紙製作体験により和紙文化の伝承を行うとともに、地域資源として観光入込客の増加を推進していく。</p>					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	施設利用者数	人	644/1200	566/1200	741/1200
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	開館日数	日	120/120	122/122	126/126

担当課による評価	C（効果があった）
評価をつけた理由	事業の目標値を 1,200 人としており、目標値には至らないが、入館者数 741 人（H30 年度 581 人）、体験者数 305 人（H30 年度 225 人）と前年度より増加しており、効果があったと評価する。

R1 推進交付金「北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト」	
事業名	起業おうえん事業
担当課	産業観光課
予算額	5,167千円
<p>1 事業の背景・目的 起業（予定）者を対象としたセミナーの開催や支援制度を設け新規に開業しやすい環境を整える。</p> <p>2 事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創業セミナー 専門家等による創業セミナーを実施 ・起業家支援事業補助金 市内で新たに起業する者、起業して1年未満の者に対し、起業に係る経費の一部を補助（補助率：ソフト事業 1/2 上限 200 千円、ハード事業 1/4 上限 500 千円） ・起業おうえん助成金 創業関連融資利用者に対し、6か月分の利子相当額を全額補給（上限 9 万円）する 	
決算額	<ul style="list-style-type: none"> ・需用費：48,384円 ・役員費：126,720円 ・委託料：330,000円 ・負担金補助及び交付金：3,174,985円 計3,680,089円
KPI <u>※京都府に て集計中</u>	（目標）北部地域の製造業事業所数（京都府）452件 ⇒（結果） 件 （目標）北部地域の製造業従業者数（京都府）16,540人 ⇒（結果） 人 （目標）舞鶴港のコンテナ取扱量 16,000TEU⇒（結果） TEU （目標）若手人材の地元企業定着率（京都府）58% ⇒（結果） %
<p>3 事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業家支援事業補助金・・・3,062,000円/8件 ・起業おうえん助成金（利子補給）・・・213,903円/4件 ・創業セミナー参加者・・・34人 ・創業スクール参加者・・・45人 <p>4 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度やセミナーについてより広く PR し利用者の拡大を図る必要がある。 ・制度利用者は、飲食店や美容室など既存事業形態の企業者がほとんどで、雇用を生み出す成長するスタートアップに当てはまる企業はみられない。このことから、今後スタートアップにつながるような支援制度を検討すべき。 <p>5 R2年度以降の予定</p> <p>起業おうえん助成金制度については例年通り実施するが、起業家支援事業補助金の制度については申請要件を見直し、起業おうえん助成金制度を受けた者のみとした。さらに、セミナーについては大学と連携しシリーズ化し実施する予定にしている。</p>	

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	市内での創業者数	人	26/32	23/32	24/32
	セミナー参加者のうち、創業者数	人	2/5	4/5	3/5
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	セミナー参加者数	人	24/50	30/50	45/40
担当課による 評価	B (相当程度効果があった)				
評価をつけた 理由	前年度同様、一定数の起業者がこの制度を利用して起業した。また、セミナーにおいても、前年と比べ倍以上の参加者があった。				

R1 推進交付金「北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト」					
事業名	販路開拓支援事業				
担当課	産業観光課				
予算額	1,050千円				
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>市内の中小企業者が自社の製品や技術・サービスの販路拡大のために市外で開催される展示会・見本市・商談会へ出展・参加する経費の一部を助成する。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>関西圏内への出展は上限10万円、関西圏外へは15万円、海外へは20万円を補助する。物品販売を伴う展示会に出展する場合、1/4を補助する。申請上限は通算5回とする。</p>					
決算額	・補助金：317,000円 計317,000円				
KPI ※京都府にて 集計中	(目標) 北部地域の製造業事業所数 (京都府) 452件 ⇒ (結果) 件 (目標) 北部地域の製造業従業者数 (京都府) 16,540人 ⇒ (結果) 人 (目標) 舞鶴港のコンテナ取扱量 16,000TEU ⇒ (結果) TEU (目標) 若手人材の地元企業定着率 (京都府) 58% ⇒ (結果) %				
<p>3 事業の成果</p> <p>関西圏外のイベント出店が2件、関西圏内のイベント出店が1件となった。参加したイベントについては東京ビッグサイトが2件など、来場者規模が10,000人を超えるイベントに利用されている。</p> <p>4 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に利用されたことのない事業者に幅広く活用されるよう制度周知が必要 ・制度利用により販路開拓(新規成約)につながったかどうかの追跡調査必要。ただし、成約時期は、案件や事業者によりまちまちであるため、どのような追跡調査をするべきか検討が必要。 <p>5 R2年度以降の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2年度は同様に継続する一方、コロナ禍により社会のニーズの変化に対応できるよう、制度内容を検討していく。また、商談会以外の販路開拓手段を模索し、幅広く活用できる制度に改めていく。 					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	本制度を利用し、新規成約に結びついた件数	件	24/67	9/67	未測定/67
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	補助金利用者数	件	18/23	9/23	3/23

担当課による評価	C（効果があった）
評価をつけた理由	前年度と比較すると制度利用者数は大幅に減少したが、利用者においては大型商談会への参加を通して複数のバイヤーと面識が生まれており一定の効果はあったと考えられる。

R1 推進交付金「北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト」					
事業名	企業交流促進事業				
担当課	産業観光課				
予算額	540千円				
1 事業の背景・目的 長田野工業団地立地企業と工業団地以外の企業の結びつき及び交流の促進、企業間の交流、情報交換、受発注の醸成等を目的として実施される福知山企業交流会の活動を支援し、市内企業同士の受発注の活発化等を図ることにより企業活動の活性化、地域の発展につなげる。					
2 事業の内容 福知山企業交流会の活動に補助金を交付し、研修会や受発注懇談会等を通して企業間交流を図る。					
決算額	負担金補助及び交付金 540千円		計540千円		
KPI ※京都府にて 集計中	(目標) 北部地域の製造業事業所数 (京都府) 452件 ⇒ (結果) 件 (目標) 北部地域の製造業従業者数 (京都府) 16,540人 ⇒ (結果) 人 (目標) 舞鶴港のコンテナ取扱量 16,000TEU ⇒ (結果) TEU (目標) 若手人材の地元企業定着率 (京都府) 58% ⇒ (結果) %				
3 事業の成果 企業間交流を目的として懇談会や研修会等を計画に基づき実施し、市内企業の長田野工業団地企業から市内企業への受発注率は20%以上を維持している。					
4 課題 ここ数年大幅な活動内容は見直されていないため、他地域での企業交流事業等を情報収集し、社会・経済情勢に合わせた会のあり方を検討していく必要がある。					
5 R2年度以降の予定 福知山企業交流会は地元企業と長田野企業との繋がりを深めることを目的とした団体であるが、福知山公立大学など産学の連携も取入れ活動の幅を広げていく。					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	受発注 (市内発注/ 長田野総発注)	%	21/25	24/25	21/25
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	受発注懇談会、視察等の 参加者数	人	145/140	74/145	60/145
	受発注懇談会、視察等の 開催	回	3/4	1/2	2/2
担当課による評価	C (効果があった)				
評価をつけた理由	長田野企業の総発注高のうち市内企業への発注は21%となり、前年度の24%からやや減少した。				

R1 推進交付金「北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト」	
事業名	稼げる農業応援事業
担当課	農林業振興課
予算額	10,220千円
1 事業の背景・目的 ふくちやまのエエもん発掘事業 ・自ら稼ごうとする意欲のある農業者を支援することで、農業競争力の強化を図る。	
2 事業の内容 ふくちやまのエエもん発掘事業 ・「これぞ福知山」といえる郷土色豊かな農産物や加工品を「ふくちやまのエエもん」として認定し、商品のブラッシュアップ支援や、商談会等への出展支援を実施する。	
決算額	報償費（決算額） 732,700円 エエもん鑑定人謝礼等 旅費（決算額） 236,980円 物産展出張旅費等 需用費（決算額） 259,840円 チラシ印刷費等 役務費（決算額） 82,879円 エエもん物産展運搬費等 委託料（決算額） 3,063,300円 事業アドバイザー委託料等 使用料（決算額） 152,900円 物産展展示スペース使用料 負補交（決算額） 3,754,000円 学校給食地場産野菜導入補助等 決算額 8,282,599円
K P I ※京都府にて 集計中	（目標）北部地域の製造業事業所数（京都府）452件 ⇒（結果） 件 （目標）北部地域の製造業従業者数（京都府）16,540人 ⇒（結果） 人 （目標）舞鶴港のコンテナ取扱量 16,000TEU⇒（結果） TEU （目標）若手人材の地元企業定着率（京都府）58% ⇒（結果） %
3 事業の成果 R01年度のエエもん応募件数は67件で、その中から7品目の「エエもん」を認定し、H30年度の認定品4品目と併せて11品目となった。 東京 JR 新宿駅での特産品フェアや森の京都 DMO イベントなどに出展し、認定品のPRを実施した。	
4 課題 エエもん認定品を地域を代表する産品に育て上げるという認識に立っていない事業者も多く、東京での特産品フェアでは、大手のバイヤーから問い合わせも数件あったが、小規模経営が多く、商品ロッドの確保等の規模拡大が課題となっている。	
5 R2年度以降の予定 H30年度からR02年度までの3ヶ年で、「エエもん」の認定を積み上げ、市の内外に対して情報発信・販路拡大を実施、R03年度から、本事業の第2ステージとして更にブランド力・商品競争力を高め生産者の所得向上を図る。	

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	農業所得が対前年度 比 5%UP した認定者	人	0	3	0
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	エエもん認定品	品	0	4	7
	GAP 認証を取得する 農業者	経営体	0	1	1
担当課に よる評価	B (相当程度効果があった)				
評価をつけ た理由	エエもん応募件数はH30と比較し、31件から67件に倍増し関心が高く、認定品も4品目か7品目と増加し、認定を目指す生産者の品質向上にもつながっている。				

R1 道整備推進交付金「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画」					
事業名	地域間交流促進ネットワーク事業（市道）				
担当課	建設交通部 道路河川課				
予算額	53,074 千円（内、R2 繰越額 16,483,600 円）				
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>市道、林道の一体的な整備により、市内の道路網の整備をし、交通の利便性、地域間交流の促進、交流ネットワークの強化を通じて、災害時における避難経路の確保をし、安全・安心な道路環境、観光入込客数の増加を図る。</p>					
<p>2 事業の内容</p> <p>広域的な道路網の整備とこれに接続する幹線道路の改良を行い危機対応の強化を図る。（市道 10 路線、9,755m）</p>					
決算額	委託料 17,733,100 円（笹場小野線 測量設計業務） 工事請負費 18,857,300 円（小倉線・二瀬川大江山線 道路舗装改良工事） 計 36,590,400 円				
KPI	（目標）観光入込客数 903,785 人 ⇒（結果）1,116,577 人 （目標）森林整備施業面積 560.25ha ⇒（結果）243.3ha				
<p>3 事業の成果</p> <p>地域間を結ぶ幹線的な道路など優先度の高い路線を整備し、地域間の連携強化を行いネットワークの強化、災害時における避難経路の確保を行い安心・安全な道路環境が整えることができた。また、自動車や観光バス等の通行の円滑化を図ることができ、観光入込客が増加し、年度計画の達成に資することができた。</p>					
<p>4 課題</p> <p>用地買収が伴う事業や、他事業と連携を図り進める事業において、相手方との交渉や調整に困難を伴い工程に遅れが生じている。</p>					
<p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>引き続き、他路線の整備を進めることで、一層の誘客効果を図る。</p>					
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	工事完成路線	-	0/8	0/8	2/8
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	事業実施路線	-	1/1	2/2	4/4
担当課による評価	C（効果があった）				
評価をつけた理由	目標値を大幅に達成できた。 大河ドラマ「麒麟がくる」効果により更に観光入込客数は伸びると予想され、目標を大幅に達成する見込みである。				

R1 道整備推進交付金「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画」					
事業名	地域間交流促進ネットワーク事業（林道整備）				
担当課	産業政策部 農林業振興課				
予算額	25,220 千円（内、R2 繰越額 7,993,700 円）				
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>市道、林道の一体的な整備により、市内の道路網の整備をし、交通の利便性、地域間交流の促進、交流ネットワークの強化を通じて、災害時における避難経路の確保をし、安全・安心な道路環境、観光入込客数の増加を図る。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>通常の林道機能に加え、大江山線を観光林道として、額田大油子線を国道 9 号線の迂回路として整備する。（林道 2 路線、920m）</p>					
決算額	工事請負費 17,226,300 円（額田大油子線・大江山線 法面改良工事） 計 17,226,300 円				
K P I	（目標）観光入込客数 903,785 人 ⇒（結果）1,116,577 人 （目標）森林整備施業面積 560.25ha ⇒（結果）243.3ha				
<p>3 事業の成果</p> <p>地域間を結ぶ幹線的な市道整備と合わせ、林道法面改良を行うことで、迂回路や観光林道として安心・安全な道路環境を整えることができ、観光入込客数増加に寄与した。</p> <p>また、平成 30 年 7 月豪雨災害、台風 24 号災害により被災した、施業予定箇所への林道の復旧が完了していない箇所もあり森林施業の目標達成に至っていない。</p> <p>4 課題</p> <p>引き続き災害復旧を行うとともに、計画に従って整備を進めることにより、森林施業環境を整え丹州材の出荷量の増加を図る。</p> <p>5 R2 年度以降の予定</p> <p>計画最終年度となっているが、当初計画に対し工事進捗が遅延している林道大江山線の林道法面保全実施に伴う総事業費の増額、林道額田大油子線の整備事業量縮小に伴う整備事業の見直しや事業計画変更について関係機関との協議を進める。</p>					
成果実績 （アウトカム） 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	木材搬出量	m3	7500/7700	3300/8500	3430/9300
活動実績 （アウトプット） 実績/当初見込	事業実施延長 （大江山線）	m	0/150	0/33	27/48
	事業実施延長 （額田大油子線）	m	80/90	0/59	79/79

担当課による評価	C（効果があった）
評価をつけた理由	全体の森林整備施業面積については目標達成に至っていないが、計画路線付近において事業体による森林整備が進められている。また、市道整備との全体計画においては、入込客数の増加等目標達成に至っている。大河ドラマ「麒麟がくる」の効果もあり今後も目標値を上回ると予想される。

R1 推進交付金「働いてみたい福知山長田野工業団地PR事業 ～企業誘致、環境対策に向けて～」					
事業名	長田野工業団地内緩衝緑地帯再整備等事業				
担当課	秘書広報課				
予算額	10,000千円				
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>「長田野工業団地利活用増進計画」に基づき実施する業務であり、長田野工業団地内から騒音や災害を遮断する目的で緑地等が設置されたが、近年樹木が大きくなり、企業敷地内に越境している。樹木が入り込むことは動物等が入り込むことになり、衛生上問題がある。樹木伐採を計画的に進め、企業の操業環境を確保する。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>緑地等の樹木伐採及び処分</p>					
決算額	委託料 維持管理業務 8,399,900円 その他の業務委託 1,556,500円 計9,956,400円				
KPI	(目標) 新規誘致企業数 1社⇒(結果) 1社 (目標) 地元雇用者数 10人⇒(結果) 4人				
<p>3 事業の成果</p> <p>長田野工業団地利活用増進計画により、長田野工業団地内企業と協議を行うことによって、良好な計画で進捗している。企業の操業環境の整備が順次実施できている。</p> <p>4 課題</p> <p>緩衝緑地の目的を損なわず、なおかつ企業操業の環境を適宜改善していく。</p> <p>5 R2年度以降の予定</p> <p>長田野工業団地利活用増進計画に基づき、実施する。</p>					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	Instagram「#いがいと福知山」投稿件数	件	1268 (3か月)	7311	12525/8000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	メディア記事掲載件数	回	107/100	207/150	307/300
担当課による評価		C (効果があった)			
評価をつけた理由		長田野工業団地利活用増進計画に基づき、順次実施しているため			

R1 推進交付金「働いてみたい福知山長田野工業団地PR事業 ～企業誘致、環境対策に向けて～」					
事業名	化学消防車両購入事業				
担当課	秘書広報課				
予算額	74,000千円				
1 事業の背景・目的 長田野工業団地立地企業の危険物を貯蔵又は取り扱う施設での危険物火災等に対応できる化学消防車の導入を行うことによる防災安全対策を講じ就労環境の改善を図る。					
2 事業の内容 化学消防車両の導入 1台					
決算額	備品購入費 71,500,000円				
KPI	(目標) 新規誘致企業数 1社⇒(結果) 1社 (目標) 地元雇用者数 10人⇒(結果) 4人				
3 事業の成果 危険物火災等に対応できる化学消防車を導入した。					
4 課題 引き続き、災害活動における機動力の確保と性能向上を図り、円滑な消防活動を行う。					
5 R2年度以降の予定 なし					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H29	H30	R1
	Instagram「#いがいと福知山」投稿件数	件	1268 (3か月)	7311	12525/8000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H29	H30	R1
	メディア記事掲載件数	回	107/100	207/150	307/300
担当課による評価		C (効果があった)			
評価をつけた理由		※今まで以上に、危険物火災等に対応できる体制が整った。			

R 1 北近畿『知』の拠点を活用した地域力推進計画	
事業名	福知山公立大学「知の拠点」推進事業（北近畿『知』の拠点プラットフォーム事業、まちかどキャンパス事業）
担当課	大学政策課
予算額	0 千円
<p>1 事業の背景・目的</p> <p>福知山公立大学が学生、住民、企業等の多くの方に利用いただける魅力ある大学となるとともに、北近畿地域の産学官連携ネットワークを構築し、協働連携事業等を推進するためのプラットフォームを整備する。</p> <p>また、「地域に根ざし、地域住民に見える大学づくり」を推進する一環として、旧市街地の空き店舗を改修して市民聴講を含む大学講義や市民講座等を実施するための地域連携拠点並びに京都工芸繊維大学との文理連携拠点の役割を担う「まちかどキャンパス」を整備する。</p> <p>2 事業の内容</p> <p>福知山公立大学が北近畿地域の住民、各種団体等との連携・協働の活動拠点として様々な機能を発揮するよう、メディアセンター等の施設改修及び ICT 環境を整備。</p> <p>旧市街地の空き店舗を改修して、市民聴講を含む大学講義や市民講座等を実施するための「まちかどキャンパス」を整備する。</p>	
決算額	計 0 円
K P I	（目標）プラットフォーム施設利用者数 30 人 ⇒ （結果）1,508 人 （目標）プロジェクトの新商品等の開発件数 1 件 ⇒ （結果）1 件 （目標）府県を越えた自治体連携事業数 1 件 ⇒ （結果）2 件 （目標）まちかどキャンパス利用者数 50 人 ⇒ （結果）2,604 人 （目標）住民連携取組事例数 1 件 ⇒ （結果）73 件 （目標）事業を利用した新たな起業者数 1 件 ⇒ （結果）1 件
<p>3 事業の成果</p> <p>メディアセンター、まちかどキャンパスともに目標としている利用件（者）数を上回る実績が出ている。両施設とも、学生のみならず、一般の利用者も増えてきており、「地域に根ざし、地域住民に見える大学」としての役割を担っている。</p> <p>4 課題</p> <p>施設整備に関する専門知識を有した人材が不足している。</p> <p>5 R 2 年度以降の予定</p> <p>施設利用の促進のための広報の強化や、各種関係機関との連携や、自主企画等を検討していく。</p>	

	指標	単位	H29	H30	R1
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	福知山公立大学の社会人向け講座受講者数	人	1604/200	1598/300	1253/400
	新学部設置		構想策定/構想策定	認可申請書提出/認可申請書提出	設置認可済/設置認可
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	地域と大学の連携取組数(包括協定締結数)	件	6/10	15/10	15/10
	新学部入学者数	人	-	-	212/200
担当課による評価	A (非常に効果があった)				
評価をつけた理由	メディアセンターの施設改修を行ったことで、福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮し、地域住民や企業等の「知の拠点」としての役割を果たす施設となった。また、まちかどキャンパスを整備したことで、「地域に根ざし、地域住民に見える大学」としての役割を果たしている。				